



昭和九年（一九三四）に室戸台風を牟岐港で宿直していた時に体験した人の話です。

「ラジオで大きな台風はこっちへ来よると放送していたが、何処も静かなもんや」と言って、先輩が上がってきました。暑い夜でした。窓を開けると、星がキラキラ光っていました。昭和九年（一九三四）九月二〇日夜、私は牟岐西浦漁協の建物の二階で二人の先輩とともに蚊帳かやの中で横になって雑談していました。しばらくして、南側の窓ガラスが一枚割れ、蚊帳が揺れました。まだ電灯はついていました。外を見ると、前の揚場あげばの屋根に二階屋根の雨樋が垂れていました。それが急に舞い出し、ガラス窓を叩きました。ガラスは割れ、前の屋根瓦がめくれて、何もかも一緒になって座敷に次々飛び込んできました。「ごつついぞ」と三人は真つ暗闇の中、懐中電灯の光で一階へと右往左往うおうさおうしました。

突然、ドドドドツと建物全体が揺れました。外が見え出し、風雨も少し納まりおさりました。外に出ると、低地に海水がとどまっていました。事務所西隣の家むなぎの二階屋根に加工場の棟木が二本、矢のように打ち込まれていました。

土堤どていの松並木はほとんどが折れ、残った枝にトタンがタオルをかけたように垂れていました。浜の加工場は全部飛ばされていました。まるで広い河原が広がっているようでした。築堤ちくてい中の中央突堤が崩れていました。

背景

室戸台風は、昭和9年（1934）に日本列島を縦断し、大きな被害をもたらしました。9月21日5時10分に室戸測候所で観測した最低気圧は911.9hPaで、当時の世界記録を破る強烈な台風であったために、室戸台風と命名されました。上陸後も中心気圧が低かったため、風が非常に強く、最大風速は室戸で西風毎秒45m、徳島で南東風36.7mを記録しています。台風は本州を時速70kmもの速さで北東に進んだため、風は経路の南東側で特に強く、この強い南偏風のために大阪湾を中心に著しい高潮が発生しました。

アクセス 牟岐港

- JR牟岐駅より南東へ直線距離で約500m
- 牟岐町中村
- 緯度経度 北緯33度40分02秒，東経134度25分18秒

